

海外研修便り

2014年7月2日

川股 晴奈

私は現在、アメリカのメリーランド州にある、NIH(National Institute of Health)にて研修を受けています。平成23年度より始まったこの研修への参加は、私で5人目になります。

アメリカへ渡航する前は、慣れない地での単身生活に、不安だらけでした。しかし、こちらに到着してみると、同じアパートの日本人の方々など、たくさんの方に助けられながら無事に生活することができ、大きな不安は徐々に解消されてきています。

私は6月23日よりNIHでの研修をスタートしました。NIHは、バスで移動する必要があるほどの広大な敷地に、たくさんの建物が建っており、まるで一つの町のように。私がお世話になるNIAAA(National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism)の研究室がある建物の中も、まるで迷路のようで、道を覚えるまでは目的の場所になかなかたどり着くことができません。

NIHでは研修を始めるにあたり、必ず受講しなければいけないテストや講習があります。パソコンで受けられるものや、実際にクラスを受講するものなど、タイプは様々です。すべて英語のため、理解して、回答するという作業にすごく時間がかかってしまっています。

研究室の方々は、困っていると、いつも助けてくれる優しい人ばかりです。拙い英語しか話せない私の話を根気強く聞き、励ましてくれることを本当にうれしく思っています。いろいろな方々のサポートのおかげで、楽しく研修を続けることができています。

アメリカに来てもうすぐ3週間経ちます。買い物や地下鉄にも慣れ、少しずつではありますが、一人で行動できる範囲が広がっていることを実感しているところです。これから、病棟でのプログラムの見学や、研究セッションへの参加などをしていきます。短い期間ではありますが、たくさんの学びを日本に持ち帰りたいと考えています。

まだまだ戸惑いや不安もありますが、自分で乗り越え、アメリカ生活を楽しまたいと思います。



↑研究室が入っている建物

